「世界を変えるのは誰？」

三股町　正村　かなめ

私は現在の日本の政策、つまり選挙権を１８歳に繰り下げるといった政策に本当に意味があるのかどうか疑問があります。
というのも、若者の政治へ対する意識が日本は世界的に見ても低いという現状があるからです。そのため、選挙権を繰り下げても投票率は飛躍的に伸びるとは考えにくいと思うのです。

では、なぜ現在の日本の若者は政治へ対する意識が低いのでしょうか。
その要因として「自分が実際に体験、経験をして得られた１次情報とニュースソース等から手軽に得られる２次情報の区別がつかずに物事を判断する若者が増えていること」が考えられます。
現在､情報の発信源の多くの割合を占めるものにインターネットがありますが､無数の情報が交錯する中で、ネット上から得られた２次情報をその正誤や是非を確かめもせず、１次情報だと誤認し、判断が正確にできなくなっている人が多く見られるようです。その証拠に、メディアに踊らされている人々が増え、モラルに反する行動による事件が多発していることがあげられます。
また、マスメディアの報道を全て鵜呑みにし、さらには情報を誤解したまま自分の感情優先で物事を選択する人々も少なくはないように見えます。そのため、このままでは日本の将来に不安が残ると思うのです。

私にはフィリピンへ留学をした経験があります。
留学中、私は多くの友人と様々な話をしましたが、その中で政治の話題になったことがありました。その時、ほとんどの友人が政治に関する自分の考えをしっかりと持ち、意見を話してくれました。また、政治の在り方について友人同士互いに討論し合っている場面も何度も目にしました。

私と同年代の人たちが、自国の政治について討論している姿を見た時、私は日本で見ることのない光景にとても新鮮さと驚きを感じました。その状況に非常に興味があった私は、フィリピン人の政治への意識について聞いてみましたが、フィリピンでは若者の半分以上が政治への意識が高いということがわかりました。
調べてみたところ、彼らが政治に関して意識が高い理由の一つに具体的な政策の開示があるようです。
ここでいう「具体的」とは、たんに候補者が自らのマニフェストを示すだけではなく、世代ごとに、例えば10代の人々はこういうことに困っているので、こういうことを実現します。20 代の人々には、30 代の人々には・・・とその世代に

わかるよう時には目線を下げて根気強く説明を続けていることを指します。
このおかげでフィリピンの若者の多くは早い時期から政治に興味を持ち、積極的に政治に参加しようとしているようでした。

一方、日本人の若者は、政治に対して期待度、関心度が低いです。
その要因は政治家の汚職事件や回復している実感がない雇用・景気の状況など多々ありますが、いずれにしてもこれらが日本人の政治へ対する意識が低い原因であることに違いはありません。
このようにフィリピンと日本の若者の意識の違いには国の政策や体制などにも関係があるようですが、今後、日本の若者の政治への意識を高めるために日本でもフィリピンのような方策を取り入れ、段階的に教育現場にも組み込んでいくべきではないでしょうか。
また、日本の政党の政策について調べてみると、若者へ向けての政策は高齢者に向けての政策よりもはるかに少ないという事実がありました。
この事実は決して政党だけに責任があるとは思いません。私たち若者も変わらなければならないという合図が表れていると私は思います。
国は高齢者の投票が多いのに比例して高齢者向けの政策を作成している側面もあるでしょう。もちろん高齢者向けの政策も必要だと思います。しかし、私たち、若者に向けての政策を考え、実行してもらう必要もあります。

では、そのために私たちのできることは何があるでしょう。
まず、一にも二にも、最重要なことは、私たちが投票に積極的に行き私たちの思いを国に届けることです。
そして次に、２次情報に惑わされることのないように、本来の国の政策はどのようなものか、国は今後どのように進むべきかなどを自ら調べることが大切だと思います。
自分の１票ごときで国が変わるわけがないと思う人が多くいます。
しかし、今後国を担っていく私たちが行動を起こし、意識を変えていかない限り、国は何も変わりません。
願ったから、望んだからと言って全てのことがかなうほど世の中は甘くはないでしょう。
しかし、一歩を踏み出さなければ、５年後も 10 年後も、100 年後もきっと何も変わらないのです。
投票することで、私たちの将来が少しでも変わるのならば、いや変わる可能性があるのならば、行動しない手はありません。
みなさんも「日本の将来を変えるのは誰か。」と問われた時、自信を持って「私だ」と言えるよう積極的に投票へ参加しましょう。

「世界を変えるのは・・・私たちです!!」